

令和4年度 大町西小学校 学校評価 自己評価（総合評価）

本年度も、大町西小学校では全職員一丸となって、「互いの尊厳を守る」学校づくりと、「協働の学び」の授業づくりによる、「よりよく生きるために学び続ける子どもの育成」を進めてきました。総合評価にあたり、はじめに印象に残る児童の姿について紹介します。

4年生の算数の授業のことです。いつでも対話ができる環境が整う中、分数を使ったかなり難しい割合の問題に一人一人が挑戦しました。筋道を立てて考えようとするAさん、計算が得意なBさん、ひらめきで図に表すのが上手なCさんの3人の対話に釘付けになりました。3人が代わる代わる対話を繰り返し広げる中で、それぞれの持ち味が発揮され、加速度的に正解に近づいていきます。対話で新たな視点を得るたびに子どもたちがこの問題にのめり込んでいくのを見てわかります。正解にたどり着いた時の3人の高揚した満面の笑顔が忘れられない授業でした。この子たちは、この難問を、あきらめることなく、対話しながら自分の力で解いたこと、そしてそれがとっても楽しかったことを、きっと忘れることはないだろうと思いました。



ほんの一コマの姿ではありますが、「協働の学び」に取り組んできた成果が着実に目に見えるものとして現れてきていることを感じさせてくれるものでした。「学び続ける子どもの育成」のために、このような学びの経験を1つでも多く積み重ねてあげたいと改めて思いました。

以下、本年度の取組の成果と課題を示し、来年度の展望をまとめます。

<成果と課題>

1 対話を軸とした協働の学びの定着

多くの教室で、学習課題、今日の結び目、単元の核心、マインドマップといった協働の学びのツールが、日常的に位置付くとともに、机を4つに合わせる対話の環境が整ってきました。アンケート結果はもとより、前述のように対話の良さを実感できる児童や教員が増えています。1年間ガイドラインに基づきLCで対話を重ねてきたこと、個人研修で各自テーマを持って授業改善に取り組んできたこと、全校研究として村瀬先生にご指導をいただいていたこと等、1年間協働の学びに先生方が真摯に向き合い、子どもたちのために研鑽してきた成果です。

今後もニーズに合わせた研修を継続させながら、対話の質を高めていくことで、学ぶ楽しさを子どもたちに伝え、自ら学習する力へつなげていきます。さらに、児童にとっての学びは教科に留まるものではないので、協働の学びを教育活動全般に広がっていきます。

2 自己有用感への取組

自分の良さを感じることでできる児童が増え、本校の課題であった不適応を見せる児童についても、少しずつですが減少の方向へ進めることができました。「困ったことを友だちや先生に相談できる」児童の割合も増えています。「互いに尊厳を守る」理念の下、聴く姿勢を大切にした支援と、対話のできる学級づくりを進めてきたことの成果と考えています。また、本年度試行した高学年の教科担任制も、児童を多面的に捉え、支援の幅を広げることにつながりました。

しかし、学年が上がるに従い不適応を見せる児童をなくすにはまだ道半ばと言わざるを得ません。個に寄り添った支援を進めるとともに、心を開き対話をすることができる学びの集団づくりに取り組むことで、未然予防にもつなげていきます。

3 探究の学びへの取組

探究の学びとして取り組んだ、生活・総合的な学習の時間におけるふるさと（西小・大町）学習は、開校150周年をきっかけにして、各教室で大きく進みました。この学習によってふるさと大町や西小への愛着を深め、自信や誇りを高める児童を育むことが出来ました。

今後も、教科横断的な視点に立った生活・総合のカリキュラムづくりを進め、児童一人一人にとって探究の学びの場を保障し、自ら課題を持って追究する力を育みます。

<次年度の展望>

- 1 協働の学びをさらに推進します。来年度は、大町中学校が開校し本校の児童は1つの中学へ進学することになります。小中連携により9年間の見通しを持ち、児童の発達段階に応じた協働の学びの充実をめざします。教師のニーズに沿った研修を進めるとともに、児童へも学び方の理解を図り、めざす学びの姿を共有しながら進めます。

児童にとっての学びは教科に限定されるものではありません。協働の学びを教育活動全般で生かしていきます。

- 2 互いを認め心を開いて主体的に学び合う集団づくりに取り組むとともに、多様な人と関わったり学び合ったりする活動を通して、自己有用感をいっそう高めていきます。
- 3 総合的な学習の時間の中に、探究の学びの時間を位置づけます。そのために、自ら課題を見つけ、協働の学びによって課題を解決する過程を個々に体験するカリキュラムを検討します。
- 4 本年度文部科学省より出された375号通知により、特別支援学級と通常学級の役割が改めて明確になりました。特別支援学級では、個別の支援計画に基づき、自立活動や生活単元学習の充実を図ります。また、通常学級にいて教科学習に不安を持つ児童が、安心して学ぶことができる教室づくりを、学びの集団づくりを基盤として、ユニバーサルデザイン化と個別の支援の両面で進めます。通常学級在籍児童であっても、必要な自立活動や教育相談が受けられる体制を整えていきます。
- 5 低学年では、幼保小の連携を進め、切れ目のない適切な支援を進めます。
- 6 本年度、高学年の教科担任制を試行的に進めてきました。生徒指導面、教科の充実面、業務改善面等で多くのメリットがありましたので、学年の担任の入れ替わりによる高学年教科担任制（国語・算数）を実施します。単級となる4年生については、連学年での実施を検討します。
- 7 ICTは、本年度多くの授業で活用が進みました。教科によって活用方法が違うことはもちろんですが、ICTの恩恵と機器の活用スキルの習得は、どのクラス・児童においても同様に保障される必要があります。校内外を問わず児童が文房具のように使いこなすこともめざし、家庭との連携を図りながら、情報モラル教育と一体的に進めます。
- 8 子どもたちが多様な地域の大人と関わる機会は、自己有用感の育成、探究の学びの推進、さらにはキャリア教育にも不可欠です。アフターコロナを見据え、地域ボランティアの充実を進めます。

本年度は、開校150年という大きな節目を地域の皆様と一緒に喜び合い、改めて西小の子どもたちにとっては、誇りと自信を高める記念の年となりました。開校150周年事業実行委員会の皆様をはじめ多くの地域の皆様に支えていただき、子どもたちと一緒に育てていただいたことに心から感謝を申し上げます。次年度も職員一丸となり、151年目の新たな一步を踏み出します。

大町西小学校長 中原 敏